

「モラル問」ポイ捨て 集められたゴミは山盛り

ボランティアを募り清掃活動

「北緯四〇度クリーンアップ大作戦」は、十二月二十二日、村観光協会(熊谷泰彦会長)主催で、黒崎の村境から普代駅までの九区間(県道四十四号沿い)を、二十人が参加して行われました。

民を対象にボランティアを募り行われました。

「北緯四〇度クリーンアップ大作戦」は、十二月二十二日、村観光協会(熊谷泰彦会長)主催で、黒崎の村境から普代駅までの九区間(県道四十四号沿い)を、二十人が参加して行われました。

小学生から高齢者までゴミ袋片手に、道路沿いに投げ捨てられた空き缶など拾い集め約三時間ほどで作業は終了。参加者の一人、中央区の松葉千春さん(久慈商二年)は、「父に誘われて参加しました。思っていたよりゴミが多くてびっくりしていました。」

ゴミでいっぱい堤防の河川敷

クリーンアップ大作戦で集まったゴミは山盛り
あまりの多さに「がくぜん」とする参加者たち

普代中学校(寺林拓也校長・生徒百二十一人)の中央区校外班(向川戸香織班長、三年)では、夏休みのボランティア活動の一環として堤防のゴミ拾いを計画。一年から三年生までの十一人と保護者三人、担当の佐藤和博教諭が参加、普代樋門(旧普代水門)五十餘付近から新普代橋までの河川敷の清掃活動を実施。ポイ捨てされていた空き缶やインスタント食品のカップなど普代指定ゴミ袋十一個分を拾い集めました。

ところがなんと、三日と立たないうちに空き缶、菓子袋、インスタント食品のカップなどが投げ捨てられ、あつという間にゴミの山。緑の中に乱雑に散らばっているゴミ。十一月も半ば過ぎの夕方、同校外班の三年生三人(向川戸班長、熊谷伊寿美さん、桜庭春樹君)に佐藤教諭が加わり再度ゴミを収集。

熊谷さんは、「夏休みにきれいにしたばかりなのに」とがっかりした様子。「モラルや環境問題を考えてほしい」と訴えています。

第14回ふるさと普代会の集い

「ふるさと」ただただがねえ

東京ふるさと普代会(畠山茂樹会長・会員百八十五人)の平成十四年度の総会と集いが昨年の十月二十七日、会員ら約七十人が出席し、東京千代田区の九段会館で行われました。十三年度の決算や十四年度の事業計画、予算を満場一致で承認し総会は予定通り終了。続いて普

代村漁協の太田俊史代表理事組合長が漁業を取り巻く環境の厳しさなどについて講演しました。懇親会では、黒崎出身の坂原レツ子さん(旧姓・道合さん)らが踊りを披露するなど、集いに華を添えました。

各テーブルでは、十月六日に太田名部漁港で四千人を越える観客で大賑わいを見せた「ふだいまる」と海産まつりの話題や思い出話、近況報告に笑い声ははじけ、普代弁まらだしで交流を深めました。懇親会の最後には、会員の



「普代人」特別養護老人ホームうねとり荘(野崎貞信施設長、入所者五十人)へ贈られた。

「毎年いただきたい、とても感謝しています。利用者の皆さんに役立つように大切に使用させていただきます」と、野崎施設長は笑みを浮かべながら話してくれました。

ふるさとが身近に感じられる時代になった今、距離感がなくなりつつあります。東京も普代も一緒になって普代村を大いに宣伝し「三陸に普代村あり」と誇れるブランドづくりを目指して行きましよう。